中日新聞　2013年（平成25年）3月26日（火曜日）

小牧・みわレディースクリニック

小牧市小牧の「みわレディースクリニック」で、1997年5月の開設から数えて1万人目の赤ちゃんが誕生した。三輪貴彦院長らが25日、母子の退院に合わせて記念の花束を贈り、節目を祝った。（平井剛）

1万人目の赤ちゃんを抱く末石さんと数字の人文字をつくる医療スタッフ＝小牧市小牧で

赤ちゃん1万人目誕生

近郊版

97年開設「多くの命 関わりたい」

一万人目は、二十日午後六時二十五分に産声を上げた男の子。母親の同市東田中、末石アレサンドラさん（二四）は「陣痛が始まってから生まれるまでの十四時間は本当につらかった。でも、今はそんな痛みも忘れるくらい、うれしさでいっぱい」と、胸の中で眠るわが子を見て顔をほころばせた。

出生時の体重は三七四四グラム。三輪茂美副院長は「大きめの赤ちゃんで、健康そのもの」と話す。末石さんは「元気に育ち、立派な人になってほしい」と成長に期待した。

同クリニックは前身の「三輪産婦人科」時代を含めると半世紀余の歴史があり、市内の産科開業医の中で最も古い。年間五百～六百件のお産を引き受け、中には親子三代にわたってお世話になるケースも。三輪院長は「地域の妊婦さんから信頼されて、お産を任せられるのは大変ありがたいこと」と話す。

助産師を含む充実したスタッフで万全を期すほか、緊急時に備え、近隣の市民病院などとネットワークを組む。産科は激務で訴訟トラブルも少なくないが、「うちは大病院との連携があり、心強い」と三輪院長。「今後も地域の周産期医療を担い続け、多くの命の誕生に関わっていきたい」と話した。